

地域共生 I

里山保全活動の取組、手法

日時：平成20年10月5日（日） 10:00～12:00

講師：金親 博栄（ちば里山センター会長）

概況



千葉里山センターの活動

■千葉県の森林分布

千葉県の森林は県の面積の3割とあまり多くはない。代表的な森林としては、(1)平地の落葉広葉樹と常緑広葉樹の混交林(2)海岸のクロマツ林(3)山武林業のスギ林(4)房州の森林、の4つに分けることができる。全国各地と同様に手入れがされず荒廃した森林や、放置された竹林が目立っている。なかでも産業廃棄物の不法投棄は全国の廃棄物の残存量の25%を占める。

■里山条例の制定と「ちば里山センター」設立

里山の多面的機能の積極的評価や伝統的な文化の継承、県と県民が協働していくことなどを通じて、県民の健康で文化的な生活の確保、活力ある社会の実現を理念として里山条例が制定された。これを受けて里山の保全・再生活動に取り組むボランティア団体のネットワーク組織として、ちば里山センターが設立された。現在、正会員数は74であり、今後も増加する見込みである。

■ちば里山センターの事業内容と里山活動協定

活動団体間のネットワーク構築、活動団体への支援、体験イベントの開催、情報の発信などを実施している。具体的には、活動事例発表会や講演会の開催、里山整備のための技術研修、ボランティア保険の開発などである。次世代の担い手を育成する

ために、学生を対象とした里山活動体験講座や、学生の里山整備の支援にも力を注いでいる。

「里山情報バンク」という、森林整備に困っている土地所有者と活動場所を探している市民団体・企業をコーディネートする制度を設けている。

■まとめ(これからの課題)

市町村が関与し、地域住民の主体的な活動の展開および土地所有者の理解と協力がなされることによって、美しい里山(他に誇れる地域環境)の再生が図られる。継続的な資金の確保(法人・企業の参画)と法人化、後継者の育成、都市部の活動をいかに山間部へ繋げるか、などなどが今後の課題として挙げられる。